

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦1	タイヤ・道路摩耗粉塵の定量に関する国際標準化	土壌や堆積物中のタイヤ摩耗粉塵を定量する分析方法について、土壌などの前処理条件や分析上のノウハウなども含めて国際標準化を行う。	2年	4,544,999円(上限)／初年度
募戦2	乗用車用タイヤのアイスグリップ試験法に関する国際標準化	乗用車用のタイヤの氷上グリップ性能に関する規格について、日本製タイヤが適切に評価される試験条件とする改正を行う。	3年	17,494,121円(上限)／初年度
募戦3	モバイルサービスロボットの安全運用マネジメントガイドラインに関する国際標準化	移動型サービスロボットを活用するロボットサービスプロバイダが、受益者及びロボットサービスにおける第三者の安全のために用いる安全マネジメントシステムのガイドラインについて国際標準化を行う。	3年	12,627,157円(上限)／初年度
募戦4	ロボットシステムの評価指標および試験方法に関する国際標準化	複数のロボットと建物設備によって運用されるサービスロボットシステムがトータルで、安全かつ効率的に導入先のタスクを遂行できているかを評価するための、ロボットシステムの性能指標および試験方法の国際標準化を行う。	3年	36,575,000円(上限)／初年度
募戦5	ロボットフレンドリー環境の実現を踏まえたロボットサービスインフラに関する国際標準化	ロボットサービスを展開するインフラの要件を定めたフォーラム標準RFA規格等及びそのインフラ上で動作するサービスロボットの性能基準・試験方法の国際標準化を行う。	3年	25,536,940円(上限)／初年度
募戦6	準天頂衛星を活用した精密時間デバイスに関する国際標準化	日本の準天頂衛星(みちびき)を活用する衛星測位を用いた、位置情報の決定等に必要となる精密時間の精度(レベル分け)等について国際標準化を行う。	3年	6,205,958円(上限)／初年度
募戦7	ドローンサービスの品質ードローンサービス事業者に対するプロセス要求事項(JIS Y1011)に関する国際標準化	ドローンサービス事業者がドローンサービスを提供するに当たり、一定の品質を確保するために必要な手順等について国際標準化を行う。	3年	24,895,864円(上限)／初年度
募戦8	無人航空機の一般要件規格(ISO 21384-2:2021)に関する国際標準化	日本の無人航空機の型式認証、機体認証制度との整合がとれる要件について規定し、現行規格の改訂を行う。	3年	6,068,854円(上限)／初年度
募戦9	人工構造タンパク質繊維の環境性能評価及び流通促進に関する国際標準化	人工構造タンパク質素材の市場拡大のため、日本主導による構造タンパク質繊維の混用率試験方法、海洋分解性評価法、環境影響評価手法に関する国際標準化を行う。	3年	37,006,798円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦10	セラミックス積層造形により得られた成形体の特性評価方法に関する国際標準化	セラミックス積層造形品の評価方法を確立し、普及を促進させるために、セラミックス積層造形製品の特性を左右する成形体評価方法の国際標準化を行う。	3年	12,378,828円(上限)／初年度
募戦11	高精度・最先端センサに応用されるファインセラミックス薄膜の高精度赤外域透過率評価方法に関する国際標準化	極薄・微細ファインセラミックス分野において日本の優位性を保っていくことを目的として、気象若しくは宇宙分野における先端センシングデバイスである赤外線センサ又は撮像素子デバイスに応用される微細・高性能・高信頼ファインセラミックス薄膜の薄膜物性の基本である赤外域における透過率を高精度に評価する方法の国際標準化を行う。	3年	7,367,021円(上限)／初年度
募戦12	自動車の燃費向上、安全性向上に資するホースの水分透過性試験方法に関する国際標準化	安全性・燃費向上の観点からホースの水分透過性について性能の優位性を訴求するため、日本や欧州で一般的なホースの水分透過性試験方法の国際標準化を行う。	3年	3,694,355円(上限)／初年度
募戦13	ステンレス鋼の耐すきま腐食性評価方法に関する国際標準化	日本製ステンレス鋼が耐食性に優れていることを客観的に示すため、東京大学が世界に先駆けて開発し、のちに JIS 化された「耐すきま腐食」の評価概念・手法の国際標準化を行う。	3年	1,928,357円(上限)／初年度
募戦14	アルミニウム及びアルミニウム合金の誘導結合プラズマ発光分光分析に関する国際標準化	アルミニウムは自動車や半導体製造装置などの精密機器に多く使用されており、その特性に影響を及ぼす微量不純物の把握と制御が非常に重要となる。多元素を迅速かつ高信頼性で測定できるアルミニウム及びアルミニウム合金の誘導結合プラズマ発光分光分析の国際標準化を行う。	3年	9,167,145円(上限)／初年度
募戦15	民生用途向けチタン材料の化学分析方法及び製品規格に関する国際標準化	チタンは軽量かつ優れた耐食性を有しており、水素製造のための水電気分解装置の電極や燃料電池のセパレータ、原子力発電所の腹水器用溶接管など、カーボンニュートラル実現に不可欠な素材である。日本のチタン材料が世界でイニシアチブを取るために、JISで規定されているチタン及びチタン合金の化学分析方法及び製品規格の国際標準化を行う。	3年	2,690,981円(上限)／初年度
募戦16	空間分割多重システム(SDM)に関するマルチコアファイバ・シングルコアファイバ変換デバイス(FIFO)の国際標準化	次世代光ネットワークの大容量化に必須となるマルチコアファイバ(MCF)は実用化が始まったばかりの状況にある。MCFに必要なFIFOの技術は世界に先駆けて日本で開発が進められ世界をリードしている分野であるが、今後、品質の裏付けのない価格のみの熾烈な競争が予想される。これを解決するため、FIFOの性能評価を行うための国際標準化を行う。	3年	9,416,000円(上限)／初年度
募戦17	メタバース等のサイバーフィジカルコンテンツにおけるアバター設定に関する国際標準化	昨今のメタバース空間において、機能が異なるアバターが「分類未定義」「説明なし」のまま氾濫しつつある(例:上半身だけのアバター、人以外のアバター、顔と手先だけのアバター、写実的なアニメ風のアバターetc.)。このため、アバターの「機能」「品質」「倫理的配慮(安全・安心)」などについてエンドユーザーが誤解なく理解できるよう、アバターの機能を定義するための国際標準化を行う。	3年	10,658,000円(上限)／初年度
募戦18	国際標準楽譜番号(ISMN)に関する国際標準化	ISO 10957で規定されるISMN(International Standard Music Number)は楽譜に付されるコード、原産国・出版社・楽譜・版を識別でき世界90カ国以上で使用されているが、規格内容の一部が現行の実情に合っていないことから、国際規格の改正にかかる国際標準化を行う。	3年	3,000,000円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦19	タッチレススマート空中ディスプレイ及びアイウェアディスプレイの画質とレイテンシ測定に関する国際標準化	空中インターフェースの開発は日本が先行し、すでに千台を超えるATMで社会実装がなされている一方で、中国・韓国・台湾による後追いの開発が増えている状況にある。先行する日本企業の技術的優位性を顕在化させて、空中インターフェース市場の拡大のために、日本からタッチレススマート空中ディスプレイ及びアイウェアディスプレイの画質とレイテンシ測定に関する国際標準化を行う。	3年	14,100,086円(上限)／初年度
募戦会旅1	包装機械の国際安全規格に関する標準化活動	包装機械の安全性に関するISO規格を検討するにあたり、国内メーカーや他団体、ユーザーからなる審議委員会にて対応する範囲を検討し、国際会議に臨み、国際会議においての規格作成に積極的に関与する	3年	4,131,571円(上限)／初年度
募戦会旅2	物流技術のサプライチェーンへの応用(TC122/WG12)に関する標準化活動	サプライチェーンのデジタル化、スマート化実現のためには、パレットや通い箱等の輸送器材やパレタイズされた輸送単位にIDをつけ、管理するように出来ることが必要であり、その手段としてRFIDやバーコードなどの技術を応用することを推進するための標準化を持続的・包括的に推進する。	2年	2,389,464円(上限)／初年度
募戦会旅3	ろ布性能および乾式小型ろ過集じん装置の性能評価試験法に関する標準化	粉じん爆発や粉じん火災を防止するには捕集する粉じんに応じて、帯電性能・難燃性能が正確に評価されたろ布を適切に選定する必要があり、粉じん負荷時の帯電防止を目的とした帯電特性・放電性能の評価を中心とした国際規格の開発を推進する。	3年	2,106,470円(上限)／初年度
募戦会旅4	機械の電気安全分野における国際標準化活動	IEC/TC44(機械類の安全性—機械の電気装置)に関して、メーカ委員や使用者委員、さらには研究機関等の中立委員からのコメントを集約し、IECへ実態に即した要望を行うとともに、規格の有用性等を検証し、国際会議での意見内容等を取りまとめる。さらに、日本から提案予定のレーダセンサについての活動などについても行う。	3年	1,674,640円(上限)／初年度
募戦会旅5	伝統医学領域(漢方・鍼灸)の薬品・食品・医療機器および医療情報に関する標準化活動	国際的なヘルスケア市場において、灸具をセルフケアの有益なツールとして推奨し、その普及を推進していくために、灸具の燃焼生成物の安全性に関する報告書作成の手順を国際標準化する。また、国際的に流通している、中薬製品による健康被害を未然に防止することを目的に、漢方薬に使用される生薬の原料となる薬用植物の栽培・採取および一次加工のプロセス(GACP)を国際標準化する。	3年	2,219,644円(上限)／初年度
募戦会旅6	ISO/TC61/SC4に関する持続的標準化活動	ISO/TC61/SC4におけるプラスチックの耐炎性評価に関する基本的な規格開発において新規開発に専門家として積極的にかかわり、かつ規格改正についてはプロジェクトリーダーとしての開発推進を行う。	3年	2,597,013円(上限)／初年度
募戦会旅7	ISO/TC138/SC5に関する持続的標準化活動	ISO/TC138/SC5におけるプラスチックパイプの試験方法に関する基本的な規格開発において新規開発に専門家として積極的にかかわり、かつ規格改正についてはプロジェクトリーダーとしての開発推進を行う。	3年	2,620,774円(上限)／初年度
募戦会旅8	環境規制に活用可能性のある包括的計測手法に関する標準化活動	排水・排ガス等や環境中に存在する多種多様化する化学物質を個別の物質としてではなく集合体として、一括して検出する包括的スクリーニング手法(ノンターゲットスクリーニング法)に関する標準化に対応するため、ISO/TC147(水質)/SC2(物理的・化学的・物理化学的測定)/WG85の国際会議に参加し、ノンターゲットスクリーニング法の国際規格原案2件の作成に対し、日本国内で使用が可能なものとなるよう積極的に関与する。	3年	5,375,220円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額(税込み)
募戦調1	メタバースの用語に関する国際標準化動向の調査	メタバースのビジネスを考える上で、メタバースの関連用語は様々な業界に関連する概念であることと、異業種連携も想定されるが、メタバースの関連用語の定義が規定されていないという課題が存在する。このため、様々なメタバース関連の業界関係者ならびに標準化関係者からなる委員会を設置し、メタバース関連用語の標準化動向調査を行い、各業界からの意見を集約し標準化団体に対してフィードバックを行う。	1年	11,000,000円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募省1	建築・構造物一体型太陽光発電に関する国際標準化	太陽電池の垂直設置などにおいて受光量の見積りが困難で、初期段階において年間発電量を概算することが十分にできなかった。また融雪型は発電量や融雪性能などの定量的な評価が不十分であった。そのため、急角度設置の太陽光発電システムの年間発電量予測手法に関する国際標準化ならびに融雪形太陽電池モジュールの性能評価方法に関する国際標準化を行う。	2年	16,000,000円(上限)／初年度
募省2	再生可能エネルギーアグリゲーションシステムに関するサイバーセキュリティの国際標準化	再生可能エネルギーアグリゲーションは、これまで推進してきたERAB(エネルギーアグリゲーションビジネス)の発展型として、変動性の高い太陽光発電等の再生可能エネルギー発電設備と蓄電池等を分散電源として組み合わせ、需給バランス確保のための発電量予測、安定かつ効率的な電力システムの構築、再生可能エネルギーの普及拡大を目的としている。太陽光システムを中心とする再生可能エネルギー機器を対象に、セキュリティ脆弱性を含有する機器の特性により、ERABシステムの脆弱性を高めてしまい、また機器の国際性を鑑み、国際規格がセキュリティ確保に有効であるため、国際標準化を行う。	2年	24,997,500円(上限)／初年度
募省3	協調安全のリスク低減方策に関する国際標準化	Connected Industries時代の到来とともに、ものづくり現場では、労働人口の減少への対応として、機械と作業者の協働のニーズが増加してきており、そのような現場においては、人と機械を隔離することは現実的ではないケースも多くなる。このため、人と機械の協働や協業を可能にする新しい安全の考え方を普及させるために、協調安全のリスク低減方策(使用者が実行するリスク低減行動を適切に誘導できる保護方策)などを規定するために国際標準化を行う。	3年	20,000,000円(上限)／初年度
募省4	協働を重視したグリーンインフラの評価の枠組みに関する国際標準化	グリーンインフラの評価方法が世界的に定まらない中、スマートシティ領域において日本企業が世界市場を獲得するためには、日本の強みを活かしたスマートシティにおける評価規格が必要である。本テーマでは、日本が強みとして持つ、自然環境と自治体や住民などステイクホルダーとの協働などを活かした総合力を評価の軸とし、グリーンインフラ評価の枠組みの国際標準化を行う。	3年	16,480,000円(上限)／初年度
募省5	量子コンピューティングソフトウェアスタックに関する国際標準化	量子コンピューティングは、多様なステイクホルダーが存在する産業創成段階である。そのような状況下において日本が強みとする量子コンピューティングソフトウェアを素早く開発し、市場投入を可能にすべく、ソフトウェア層の構造を明確化し、共通化すべきソフトウェア層の技術仕様を国際標準化する。	3年	41,300,000円(上限)／初年度
募省6	Manufacturing Data Spaceに関する国際標準化	ドイツが先行する形で推進されてきたData Spaceに関する標準の普及が進んでいるが、日本の製造業の準備は進んでおらず、標準化議論において日本に有利な方向に進めるべく対応が必要である。このため、各所で行われている標準化活動のマッピング、ユースケース、国内の製造業が有利になる要件などを網羅したSRD(System Reference Deliverable)の開発を行う。	3年	12,967,634円(上限)／初年度
募省7	新素材を用いた先端半導体パッケージングに関する国際標準化	先端半導体は、微細化によるムーアの法則に破綻が生じ始め、集積度向上のためにチップレットなどのパッケージング技術に活路を見出しており、今後急速な市場拡大が予想されるAI用GPUや自動車の自動運転制御用半導体(ADAS)用GPUなど、その重要度は高い。日本は半導体部材で競争力を有するが、差別化のため評価基準などの国際標準化が重要であり、チップレットに関わるインターポーザ(中継部材)や再配線(RDL)技術の新たな評価基準などの国際標準化を行う。	3年	15,500,000円(上限)／初年度
募省8	電子機器の放熱設計を最適化する熱設計モデルに関する国際標準化	省エネルギーの重要性が認識され、電子機器の消費電力の削減があらゆる製品に求められている一方、部品の温度上昇が問題となっている。その解決のためには高精度な熱シミュレーションを行うことが有効であるが、半導体パッケージ構造に合わせた固有のモデル化技術が必要になる。したがって、本テーマにおいて、半導体パッケージの大部分をカバーできるようにした高精度熱シミュレーション用モデル化技術を開発し、国際標準化を行う。	3年	7,500,000円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募省9	ブロックチェーンを使った工業製品の模倣品防止に関する国際標準化	昨今の複雑化する工業製品のサプライチェーンにおいて製造過程で混入される模倣品の被害が世界規模で増加してきている。例えば、半導体業界などにおいてこれらの被害は顕著である。この状況をもたらしている一因である不正品へのすり替えを防止すべく、ブロックチェーンに真正性に関する情報を記録し、製造過程のトレーシングを行えるようにするための一連の処理を規定する国際標準化を行う。	3年	18,385,479円(上限)／初年度
募省会旅1	浮体式洋上風車に関する標準化活動	各種の施策展開によって総発電量に占める風力発電比率が高まると予想されることから、本事業では、洋上風車の低コスト化技術や保守運営技術等の国際標準化動向を注視し、日本の意見を発信し国際標準に反映する活動を行う。さらに、風力発電システムの安全性及び信頼性向上を目的に、国内の設置環境に適した風車設計条件を国際標準に盛り込む標準化活動を行う。	1年	8,000,000円(上限)／初年度